

2017年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長
石黒 成直

下期の市場動向

→(矢印)は上期に対する変化イメージ

| 重点市場 | 市場動向 | |
|------------|------|--|
| ICT | → | 北米スマホは、3Q生産ピークだが前年比減の水準で推移の見込み 中国スマホは、上期生産水準が下期も継続の見込み 韓国スマホは、上期比減の生産水準と予測 |
| | ↘ | HDD市場は、上期比減の見込み |
| 自動車 | → | 国内向け販売は前年割れも、欧州、北米、中国市場は下期も堅調に推移する見込み |
| 産業機器・エネルギー | → | 産業機器市場は、全般的に設備投資の抑制傾向が続くが、半導体製造装置関連等、一部の市場は好調を継続の見込み 再生エネルギー市場は、各国の補助金政策の一巡などで横ばいの見込み |

(当社推定)

第3四半期の売上高増減イメージ

(億円)

| セグメント 区分 | 2017年3月期 2Q実績 | 2017年3月期 3Q予想 (対2Q) |
|--------------|------------------|---------------------------|
| 受動部品 | 1,440 | ±0% |
| 磁気応用製品 | 839 | ±0% |
| フィルム 応用製品 | 652 | +6%~+8% |
| その他 | 73 | — |
| 合計 | 3,004 | +1%~+3% |

為替前提

為替レート \$/Yen 102.47
 為替レート EURO/Yen 114.36

100.00
 110.00

2017年3月期 連結業績及び配当金見通し

| (億円) | 2016年3月期 通期実績 | 2017年3月期 業績予想 (期初公表値) | 2017年3月期 業績予想 (修正版) | 修正業績予想対前年同期比 | |
|-------------------|--------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------|---------|
| | | | | 増減 | 増減率 (%) |
| 売上高 | 11,523 | 11,600 | 11,400 | △ 123 | -1.1 |
| 営業利益 | 934 | 740 | 760 | △ 174 | -18.6 |
| 営業利益率 | 8.1% | 6.4% | 6.7% | -1.4pt | - |
| 税引前利益 | 918 | 730 | 750 | △ 168 | -18.3 |
| 当期純利益 | 648 | 500 | 520 | △ 128 | -19.8 |
| 1株当たり利益(円) | 514.23 | 396.00 | 412.19 | - | - |
| 配当金 (円) | 上期：60 下期：60 年間：120 | 上期：60 下期：60 年間：120 | 上期：60 下期：60 年間：120 | - | - |
| 為替 | 対ドルレート (円) | 120.13 | 110.00 | 下期 100.00 | - |
| | 対ユーロレート (円) | 132.67 | 125.00 | 下期 110.00 | - |
| 固定資産の取得 (設備投資) | 1,607 | 2,000 | 1,900 | 293 | 18.2 |
| 減価償却費 | 832 | 950 | 900 | 68 | 8.2 |
| 研究開発費 | 849 | 900 | 900 | 51 | 6.0 |

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2017/2q_1.htm